

年次報告

2012年度

はじめに.....	02
『2012年度 年次報告』発行にあたって	
2012年度 ハイライト.....	03
ATINA社で新工場が完成しました。 パラゴンバナナ生産者が来日、各地で交流会を開催しました。	
ATJ事業概要.....	04-05
広がるATJのネットワーク	
2012年度 活動報告(1).....	06-07
活動ダイジェスト	
2012年度 活動報告(2).....	08-09
活動トピック	
2012年度 事業実績.....	10-11
ATJのあゆみ.....	12



『2012年度年次報告』発行にあたって

代表取締役社長 上田 誠



2012年は、民衆取引のパートナーにとって節目の年となりました。2002年からコーヒーを通してつながる東ティモールは独立10周年を迎えました。また、エコシュリンプの取り組みは20年を迎え、産地では地域に根ざした活動のひろがり、そして、日本とインドネシアの海を超えた生産者のつながりをおおいに感じる事が出来た年でもありました。

一方で私たちを取り巻く世界は、ますます厳しい状況になっています。インドネシア・パプアで人間としての尊厳を守り、経済的自立をめざそうとカカオ事業に挑戦する先住民の人々。イスラエル人入植者の暴力により土地とオリーブの木を奪われる危機にさらされているパレスチナの農民たち。このような現実が進んでいることを、民衆取引品を通じてもっと伝え、知ってもらう必要性が高まっています。

「モノが動くことで、人と人が出会う。知恵と経験を出し合い協働することで、共に生きる地域社会の新しい仕組みを創り出す」ことに民衆取引の原点があります。民衆取引は、それぞれの国・地域で生産者や小規模農民が直面している様々な問題を解決するための手段として役割を果たしていくことが、ますます求められています。

来日したバランゴンバナナ生産者が語ってくれた暮らしの話から、助け合いこそ問題を解決するための力となることを教えてもらいました。カカオを紹介する交流会で語られたパプアの人々の熱い思いと夢を聞き、日本とパプアの人々がつながることで現状を変えられるという気持ちを強く持ちました。

出会いを通じて感じた「互いに思い、互いに助け合う」という「絆=つながり」の先に、私たちが共に生きていくためのしくみを創り出すことから、これからの時代の民衆取引の形が生まれてきています。思いを同じくする人々がつながり、協働することで、人々がかかえている問題を解決するための力となることをより明確にして今後の民衆取引を通じて取り組んでまいります。

会社概要

社名	株式会社オルター・トレード・ジャパン
英文社名	Alter Trade Japan, Inc.
本社所在地	東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿3F
電話	03-5273-8163
ファックス	03-5273-8162
Web Site URL	http://www.altertrade.jp/
海外現地法人	PT. Alter Trade Indonesia (ATINA) 所在地：インドネシア東ジャワ州シドアルジョ県 Alter Trade Timor Unipessoal, Lda.(ATT) 所在地：東ティモール デリ市
資本金	9,900万円(2013年4月1日現在)
決算期	毎年3月31日

設立	1989年10月20日
事業内容	バナナ、エビ、コーヒー等の食品等の輸入卸、販売
代表取締役社長	上田 誠
従業員数	19名(2013年4月1日現在)
売上高	1,443百万円(2012年度)
主な取引先	グリーンコープ連合 バルシステム生協連合会 生活クラブ連合会 株式会社大地を守る会 らでいっしゅぼーや株式会社

ATINA社で新工場が完成しました。

2011年11月、サトウキビ畑の刈り取りと整地作業から始まったATINA社新工場は、基礎工事の一つである杭打ち作業、敷地を囲む壁の建設、地下の貯水槽の建設、上屋の建設、備品の導入、配管作業等々を経て、2013年3月から試験製造を開始しました。



新加工場(左)と事務所。

建物が完成してからは、200名近い工具達が主役。旧工場から車で10分弱という立地のため、ほとんどの工具はそのまま新工場でも働き続けることができます。皆一丸となって、徹底的な内部洗浄や備品の修繕等を行い、来るべき稼働に備えました。ATINA新工場は、まさに「自分たちで作上げた工場」として、新しい一歩を踏み出しています。

ています。

その皮切りとして3月24日に開催された開所式では、日本からのゲストやシドアルジョ県知事の参加に加え東ジャワ伝統の踊りや音楽も披露され、たいへん華々しい幕開けとなりました。一方、20年前にエコシュリンプ事業

が始まる礎を築いて下さった村井吉敬先生(『エビと日本人』著者)が、その前日に他界されました。村井先生のエコシュリンプ事業に対する熱意を改めて思い起こすと共に、今後の取引の更なる発展を約束し、全員で黙とうを捧げてご冥福をお祈り致しました。

廃水処理にはBMW技術(※)を活用し、環境にも配慮した工場です。4月からはいよいよ本稼働が開始。気持ちも新たに、21年目のエコシュリンプ事業が幕を開けます。

※ BMW技術

バクテリア(微生物)、ミネラル(造岩鉱物)、ウォーター(水)の略。バクテリアとミネラルの働きをうまく利用し、土と水が生成される生態系のシステムを人工的に再現する技術。



開所式のひとこま。



開所式には多数の工具が出席。

バランゴンバナナ生産者が来日、各地で交流会を開催しました。

生産者と消費者が交流して「顔の見える関係」を深めることを目的に生産者交流会は企画されました。2012年9月、来日したのは生産者のマカオ・セラルボさんとオルター・トレード社(ATC) 職員のウィルフレッド・ギニャーボさん(通称パウロ)。関東、関西、

宮城県の8カ所で開催された交流会には延べ約400人の生協組合員が参加しました。

マカオさんは16年間

のパナナ出荷歴を持つネグロス西州の生産者です。かつては生活のために森林伐採の仕事もせざるを得ませんでした。バナナ出荷が始まって農業に専念できるようになったと述べ、7人の子どもを大学まで進学させたいと夢を語りました。

関西ではネグロス交流ツアー【P06参



あいコープみやぎ組合員との交流会。

照] 報告会にも参加し、交流すること、お互いに理解することの大切さを確認しました。宮城では津波で被災した仙台市や石巻市の状況も視察しました。

マカオさんのお話を直接聞くことで、交流会に参加した消費者からはバランゴンバナナを食べる意味を改めて実感できた、とのコメントが多数ありました。



発表するマカオさん(左)とパウロさん。

ATJ事業概要

広がるATJのネットワーク

1986年、フィリピン、ネグロス島で起きた飢餓の緊急救援をおこなうため**日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)**が発足しました。

緊急支援が一段落した1989年、JCNC、市民グループ、個人、消費者生活協同組合(※)などの出資により**株式会社オルター・トレード・ジャパン(ATJ)**が設立されました。ネグロス島の人々が自分たちで生産した産物を公正な価格で買うという経済活動を通じて、彼らの自立を支援する民衆交易の始まりです。

2008年には、日本からアジアを支援するという形ではなく、「農を軸にした地域づくり」の経験や知恵を分かち合うことを目的にJCNCは**特定非営利活動法人APLA**に再編されました。

さらに、民衆交易のネットワークを基盤にして、**互恵のためのアジア民衆基金(APF)**が2009年に誕生しました。これは、南の民衆の経済的自立に必要な資金を北の市民が拠出し、低利で融資する仕組みです。

ネグロス島の緊急救援から27年。民衆交易や民衆基金を通じてATJのネットワークは、フィリピンからインドネシア、パレスチナ、東ティモール、パキスタンなどにひろがっています。

※消費者生活協同組合(生協)
消費者が支え合い、よりよい暮らしを実現することを目的とする非営利の協同組織。生協事業の柱の一つが、安全・安心な食べもの共同購入です。ATJの株主生協・産直団体の組合員・会員数は約230万人、年間の売上高は約3,712億円(ともに2012年現在)です。



パートナー団体

生産者・出荷団体

日本語団体名(略称)	所在国	生産商品	APF会員
① 農村発展のための協同組合(CORDEV)	フィリピン	バナナ	○
② アッパー渓谷開発財団(AVDFI)	フィリピン	バナナ	○
③ オルタートレード社(ATC)	フィリピン	バナナ、砂糖	○
④ オルタートレード財団(ATFI)	フィリピン	バナナ、砂糖	○
⑤ 株式会社オルター・トレード・インドネシア(ATINA)	インドネシア	エビ	○
⑥ “私たちのカカオ”(UD KAKAO KITA)	インドネシア	カカオ	
⑦ パレスチナ農業復興委員会(PARC)	パレスチナ	オリーブオイル	○
⑧ パレスチナ農業開発センター(UAWC)	パレスチナ	オリーブオイル	○
⑨ オルター・トレード・ティモール(ATT)	東ティモール	コーヒー	
⑩ ジャイ・コーヒー生産者協同組合(JCFC)	ラオス	コーヒー	
⑪ コクラ: コーヒー生産者農業協同組合(COCLA)	ペルー	コーヒー	
⑫ マスカフェ	メキシコ	コーヒー	
⑬ カペコーヒー・エクアドル社	エクアドル	コーヒー	
⑭ キリマンジャロ先住民生産者協同組合(KNCU)	タンザニア	コーヒー	
⑮ コバック(COOPAC)	ルワンダ	コーヒー	
⑯ グランド塩生産者組合	フランス	塩	
⑰ ツイン(TWIN)	イギリス	コーヒー	

消費者団体

日本語団体名(略称)	所在国	民衆交易商品取扱	APF会員
① ドゥル生協連合会	韓国	○	○
② 生活協同組合あいこぼみやぎ	日本	○	
③ 生活協同組合連合会グリーンコープ連合	日本	○	○
④ 生活クラブ事業連生活協同組合連合会	日本	○	○
⑤ 生活クラブ関西事業部	日本	○	
⑥ 生活クラブ関西第2事業部	日本	○	○
⑦ 株式会社大地を守る会	日本	○	○
⑧ 新潟県総合生活協同組合	日本	○	○
⑨ パルシステム生活協同組合連合会	日本	○	○
⑩ らでいっしょぼーや株式会社	日本	○	

その他のAPF会員団体

日本語団体名(略称)	所在国
① “泉湧き出でて大河となる”研究所(KSI)	東ティモール
② パコス財団(PACOS)	マレーシア
③ アルカイル・ビジネスグループ(AKBG)	パキスタン
④ パプア農村コミュニティ発展財団(YPMD)	インドネシア
⑤ 社団法人ハンサリム	韓国
⑥ (特活)日本消費者連盟	日本
⑦ (特活)日本ファバーリサイクル連帯協議会(JFSA)	日本

マスコバド糖(フィリピン)

自立のために支援を受けるだけでなく、手作りの黒砂糖を日本で販売できないかというネグロス島のサトウキビ生産者の提案に、日本の消費者が応えて生まれた民衆交易第1号の商品です。マスコバドとは伝統的な製法に由来する名称です。



バランゴンバナナ(フィリピン)

市民の手で輸入されるネグロスの自生バナナ、バランゴン。生産者は暮らしの向上、消費者は安心して食べられるバナナを手に入れる。互恵の関係が20年以上続いています。ネグロスで始まった取り組みは今、フィリピン全土に広がっています。



エコシュリンプ(インドネシア)

環境を破壊する集約型養殖のオルタナティブ(代案)として開発されたエコシュリンプは、自然の力を最大限に利用した粗放養殖で育ちます。2013年3月、現地法人オルター・トレード・インドネシア(ATINA)の新加工場が完成し、品質管理がさらに改善されました。



コーヒー(東ティモール、ラオス、エクアドル、ペルー 他)

国際相場に暮らしを左右される小規模コーヒー生産者が長期的に安定した収入を得て、自立できるように支援しています。東ティモールではオルター・トレード・ティモール(ATT)とコーヒー事業をもとにした地域作りを進めています。



グランドの塩(フランス)

ブルターニュ半島の付け根にあるグランド。1,000年以上にわたって引き継がれてきた伝統的な製塩技術が、1960年代、開発の波や大規模製塩に押されて失われかけました。その製塩技術を塩職人が再生し、環境と調和した地域作りを行なっています。



オリーブオイル(パレスチナ)

パレスチナの人々の暮らしに深く根付き、重要な輸出品であるオリーブオイル。イスラエルの占領下で困難な生活を強いられているパレスチナの人々と連帯し、ともに平和を考える取り組みです。ATJのオリーブオイルはヨルダン川西岸地区で生産されています。



カカオ(インドネシア・パプア)

労働力として児童を使っておらず自然破壊につながらないカカオが欲しいという日本の消費者の声と、経済的に自立したいというパプアの先住民族の希望が出会ってカカオ事業が生まれました。「パプア人の、パプア人による、パプア人のためのカカオ事業」を進めていきます。



活動ダイジェスト

2012年5月 ● 東ティモール独立10周年記念イベント開催
【P08に詳細報告】

ATJあぶらブックレット②
『民衆交易とフェアトレード』発刊 (写真①)

6月 ● 6月7日
インドネシア・パプアよりカカオ原料を初出荷
【P08に詳細報告】

● 6月27日～7月2日
生活クラブ関西事業部・ネグロス交流ツアー
10回目となるネグロス交流ツアーに6名が参加しました。ネグロス西州ラ・グランハのバイス地域ではバナナの苗を、東州L・カンダボンでは、昨年に引き続きコーヒーやマホガニーの植樹を行いました。(写真②)

8月 ● 8月29日
地震で被災した小学校用地取得を支援
2012年2月にネグロス東州を襲った地震で、バナナ産地にあるホマイホマイ小学校も被災しました。地滑りのおそれがあるため、日本からの支援の一部も活用して新たに用地を取得、用地譲渡式典に上田社長も出席しました。

9月 ● 9月18日～28日
バラゴンバナナ生産者交流会
【P03に詳細報告】

10月 ● 10月5日～10日
パルシステム・ネグロス視察交流ツアー
毎年恒例のネグロス視察交流ツアーには組合員理事と職員計4名が参加しました。今年はネグロス西州のみの滞在でじっくりと生産者と交流する形をとりました。生産者と夜更けまで語り合い、バナナや野菜の植えつけなど、生産者といっしょに畑作業に汗を流しました。(写真③)



②

● 10月14日～22日
エコシュリンプ生産者が来日、交流
【P08に詳細報告】

● 10月27日
互恵のためのアジア民衆基金 (APF) 総会参加
南の民衆の経済的自立のため融資事業を行うAPFの第3回総会が福岡市で開催されました。日本を含め8か国から約160名が参加し、事業の進捗を報告し、交流を深めました。総会后、海外参加者は受け入れ団体のグリーンコープの組合員との交流会を各所で行いました。(写真④)

● パプア・カカオ事業を知るブックレット、DVD発刊
カカオ産地のパプアやカカオを知ってもらう学習教材としてATJあぶらブックレット③『パプア・チョコレートの挑戦』、DVD『kakao kita わたしたちがつくるチョコレート』を発行しました。(写真⑤、⑥)

11月 ● 11月3日
交流会「パプア・チョコレートの挑戦～現地パートナーを迎えて」開催
【P09に詳細報告】



①



⑤



⑥

緊張するパレスチナ情勢

14日より激化したイスラエル軍によるガザ地区への空爆は、21日の停戦合意まで8日間続きました。その直後、29日にはパレスチナ自治政府は「オブザーバー国家」として国連総会で承認され、イスラエルが強く反発。停戦後もイスラエル軍からの空爆や攻撃は行われており、ヨルダン川西岸地区を含め、緊張関係が続いています。

12月 ● 大型台風がバラゴンバナナ産地に上陸
12月初旬、大型台風24号(名称:パブロ)がフィリピン南部に上陸し、540万人以上が被災し、1,000人以上の方が亡くなりました。生産者に人的被害はありませんでしたが、ネグロス島及びミンダナオ島北部ではバラゴン畑に大きな被害がありました。(写真⑦)



⑦

2013年1月 ● チョコラ デ パプア試験販売
チョコラ デ パプアカカオ63%とコーヒー豆チョコレートの試験販売が開始されました。(写真⑧)

1月20日
「スマイルオリブ基金」でパレスチナにオリブを植樹
【P09に詳細報告】

2月 ● 東ティモールで「コーヒーからつながるひよこプロジェクト」始動
【P09に詳細報告】

3月 ● 3月24日
ATINA新工場開所式開催
【P03に詳細報告】



④



⑧

2012年度 交流企画 広報活動

- 2回実施されたネグロス訪問交流ツアーは、2団体から10人(生協組合員、職員)の参加がありました。生産・産地状況の視察及び生産者との交流を行いました。
- 生産者交流・学習会は、主な取引先である生協・団体において52回おおよそ1350名の参加で開催されました。バナナ生産者交流会は8回、約400人、エコシュリンプ生産者交流会は3回、75人、互恵のためのアジア民衆基金総会后に実施されたグリーンコープとの生産者交流会は8回、約330人が参加しました。
- 生協・団体イベント参加は20回の参加で、多くの組合員や会員にATJ商品をアピールしました。
- 「フォトライブラリー」を開設し、生産者や産地の写真を見たり、ダウンロードできるようにしました。
- ATJ You Tubeチャンネルを創設し、生産者の様子、パプア交流会の様子などを見られるようにしました。(右写真)



③

活動トピック

5月

東ティモール独立10周年記念イベント開催

独立10周年の節目を迎えて、ATJ、APLAも呼びかけ団体として参加した「東ティモール独立10周年を記念する会」が記念イベントを企画しました。メインイベントとなる「記念フェスタ in Tokyo」(東京、青山学院大学アスタジオ)では、東ティモールに関する映画5本(本邦初公開)をはじめ、ジャーナリスト、人権団体やNGO職員によるトーク、東ティモールの国民的歌手であるエゴ・レモスさんのライブなどのプログラムに計300名ほどが参加しました。

このほかにも写真展「わたしが会った東ティモール」(東京、JICA地球ひろば)、東ティモールのフェアトレード・コーヒー講座なども開催され、独立闘争支援をしてきた世代から大学



コンサートで歌うエゴ・レモスさん(中央)。

生までが集い、改めて独立までの困難と苦勞、若い世代による国づくりの挑戦を共有することができました。

6月7日

パプアよりカカオ原料を初出荷

2012年からインドネシア・パプアの先住民族がカカオを通して経済的に自立することを応援する事業が本格化しました。そして、先住民族のびとが収穫し、自らの手で加工した乾燥カカオ豆12.5トンが、二次加工(カカオマス、カカオバター等の中間原料への加工)を行う東ジャワ・ジェンブルにあるコーヒーカカオ研究所に向けて出荷されました。カカオ生産者のび

とと、加工所に集うカカオ産地の若者たちが、試行錯誤の繰り返しの中、収穫・集荷・加工という一連のプロセスをやり遂げて、コンテナが送り出されました。



乾燥したカカオ豆を袋詰めする。

10月13日～22日

エコシュリンプ生産者が来日、交流

エコシュリンプ事業20周年の一環として、インドネシアの生産者と日本の消費者の交流を行う取り組みが始まりました。今年は、シドアルジョの生産者アサッドさんとATINA監査担当のレギミンさんが初来日。3月にインドネシアを訪問している野付漁協(北海道)を訪れての学習会では、資源管理型の漁業を「自分たちで漁獲量の制限を決めて実行している」というその姿勢に、大きな衝撃と感銘を受けました。また、あいこブみやぎ、

大地を守る会、パルシステムでは、自分たちのエビが美味しく食べられていることを直に聞いたり、エコシュリンプがどのようにできあがるのかを理解してもらったり、エビ生産者にとって冥利に尽きる貴重な経験となりました。



「自然の浜を取り戻す」ため植樹しました。

11月3日

交流会「パプア・チョコレートの挑戦～現地パートナーを迎えて」開催

カカオ生産者を支援するNGO、パプア農村コミュニティ発展財団(YPMD)よりデッキー・ルマロベン代表ら2名が来日し、交流会を開催、70余名が参加しました。交流会では、「kakao kita わたしたちがつくるチョコレート」上映の後に、デッキーさんが遭遇したさまざまな苦勞や事業にける思いと夢を熱く報告しました。また、「きまぐれや」出張シェフの吉田友則さんより、スイーツにとどまらないカカオの多様なレシピも提案されました。



パプアの歌を披露するデッキーさん。

1月20日

「スマイルオリーブ基金」でパレスチナでオリーブを植樹

オリーブオイルの利用がより具体的な支援につながるよう、10月から大地を守る会で始まった「スマイルオリーブ基金」。パレスチナにオリーブを植える資金として、オリーブオイル1本の売り上げにつき会員/大地を守る会/ATJの3者計24円を積み立てます。これに募金を加えた234,308円が1月末までに集まりました。現地パートナーであるパレスチナ農業開発センター(UAWC)が2,000本のオリーブ苗を準備して、アクラバ村で植樹を行いました。アクラバ村は、周囲をユダヤ人入植地に囲まれており、村民は非常に困難な生活を強いられています。このような土地にオリーブを植えるための支援をすることで、彼らの土地を守る運動を続けていきます。



オリーブの苗を丁寧に植える生産者たち。

2月

東ティモールで「コーヒーからつながる～ひよこプロジェクト」始動

子どもたちの栄養状態を改善したいという思いから、大地を守る会子ども基金を活用して、エルメラ県ポエテテ村レキシ集落のコーヒー生産者6世帯を対象に庭先養鶏プロジェクトを始めました。村で行われている従来からの飼育方法では、病気や獣害のため鶏肉や卵を日常的に生産、消費するには至って

せん。そこで、資材を提供し鶏舎を建て、ワクチン投与で病気を予防したり、適切な給餌や生産記録の付け方といった飼育技術を生産者が学ぶ研修やモニタリングを実施しています。



鶏舎で育つ鶏。

商品別事業実績

バラゴンバナナ

8月上旬にフィリピンの東海上を北上した台風とその後の季節風の影響で秋以降収量が落ち込み、さらに12月の大型台風の影響で年明けからも大きく収量が減少しました。その影響などで、年間輸入量は昨年比84%と大きく落ち込み、それに伴い販売額も減少しました。

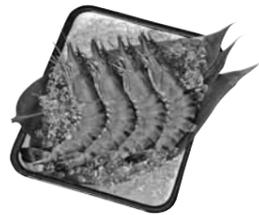


●バラゴンバナナ 過去3年の売上額及び輸入量

	第22期(2010年度)	第23期(2011年度)	第24期(2012年度)
金額(千円)	572,245	578,817	510,847
輸入量(トン)	1,911	2,063	1,739

エコシュリンプ

製品販売では約266トン/5億4,260万円の売上となり、昨年比で約94.2%と落ち込みました。一方、加工用原料販売は約48トン/7,750万円の売上、昨年比の133%近い伸びとなりました。一般的に国内の水産品販売が苦戦している中で漸減傾向は避けられないことから、改めてその価値や伝え方を見直すことで、利用の維持と拡大に向けて取り組む必要があると考えています。



●エコシュリンプ 過去3年の売上額及び輸入量

	第22期(2010年度)	第23期(2011年度)	第24期(2012年度)
金額(千円)	620,931	632,066	621,391
輸入量(トン)	313	304	334

コーヒー

2012年度の販売実績は予算対比89.9%で昨対比97.5%でした。一昨年に国際相場価格が高騰した生豆を、製品、生豆販売に引き続き使用せざるを得ないことが影響していると考えられます。輸入量は、2011年シーズン例年になく不作だった東ティモールが豊作に転じ3コンテナを出荷しましたが、合計は約175トンとなり、昨年を若干下回りました。



昨年は、ATJ民衆交易コーヒーの「アジアのコーヒー」シリーズで、第二弾「アジアのコーヒーラオス」、第三弾「アジアのコーヒーアジアブレンド」、第四弾「アジアのリキッドコーヒー」の販売を開始しました。

●コーヒー 過去3年の売上額及び輸入量

	第22期(2010年度)	第23期(2011年度)	第24期(2012年度)
金額(千円)	220,841	199,229	188,323
輸入量(トン)	249	178	175

パレスチナのオリーブオイル

オリーブオイル全体で約23トン、関連製品も含めた売上では約5500万円の売上となり、昨年比で約95.9%の実績となりました。今年度から、より具体的なパレスチナ支援の形として、植樹の取り組みを開始しました。パレスチナ支援とオリーブオイルとしての特徴の両面を打ち出すことで、利用の促進を図って参ります。



(注) 2013年4月より273ml製品は遮光ビンを導入しています。

●オリーブオイル 過去3年の売上額及び輸入量

	第22期(2010年度)	第23期(2011年度)	第24期(2012年度)
金額(千円)	64,154	56,778	54,478
輸入量(トン)	28	36	9

マスコバド糖

2012年度のマスコバド糖、黒みつ、かりんとう、黒あめの販売実績は昨対比97%でした。輸入量は原料糖で60.7トン、500g製品は57.4トンを輸入しました。販売重量では、製品販売はほぼ横ばいでしたが、原料糖では2012年1月に行った値上げの影響もあり、昨対比約84%と減少しました。



●マスコバド糖 過去3年の売上額及び輸入量

	第22期(2010年度)	第23期(2011年度)	第24期(2012年度)
金額(千円)	47,883	44,527	43,191
輸入量(トン)	114	116	118

※マスコバド糖関連商品を含む。

ゲランドの塩

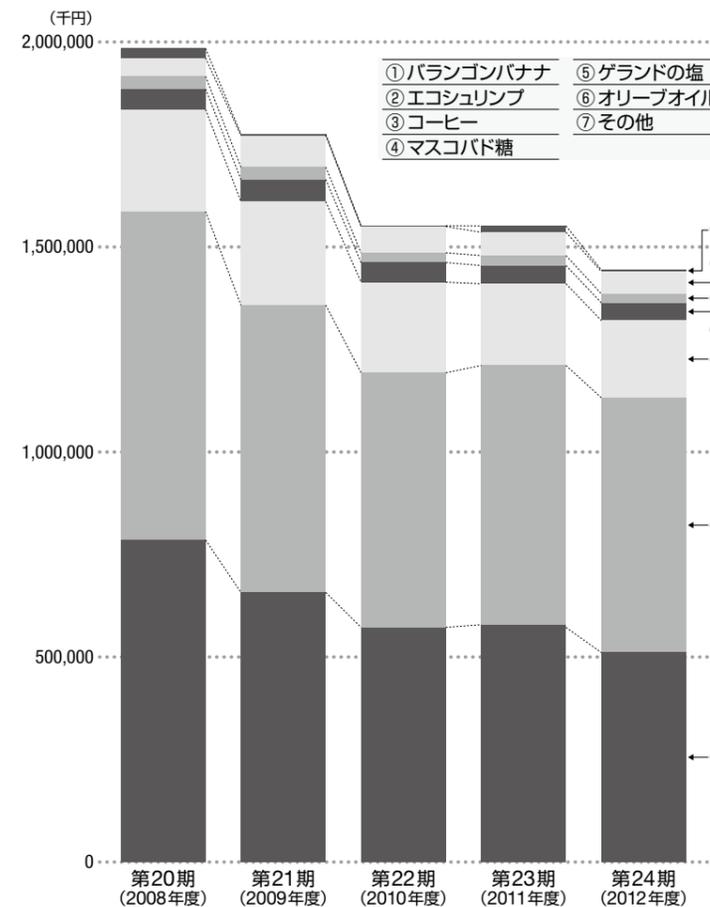
販売実績は昨年比で約89.6%であり、販売面では非常に厳しい状況が続いています。既存製品の拡販だけでなく、加工用原料や製パンへの利用について検討をするなど、新しい展開を模索する必要があると考えています。



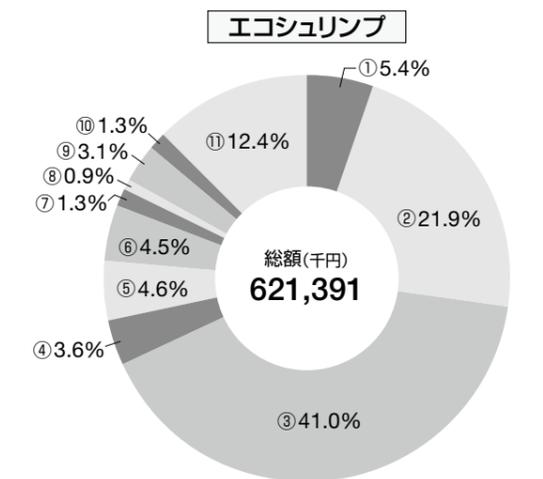
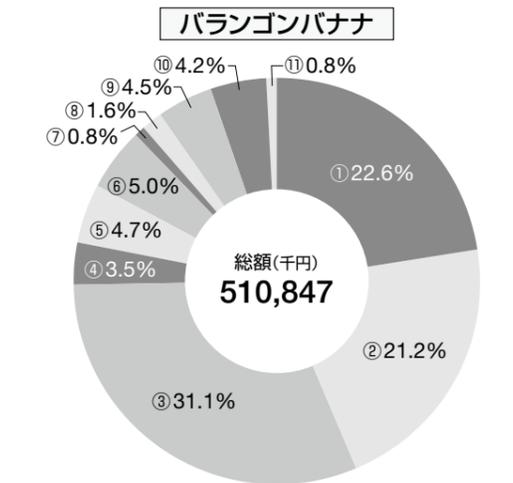
●ゲランドの塩 過去3年の売上額及び輸入量

	第22期(2010年度)	第23期(2011年度)	第24期(2012年度)
金額(千円)	23,797	24,284	22,026
輸入量(トン)	35	29	44

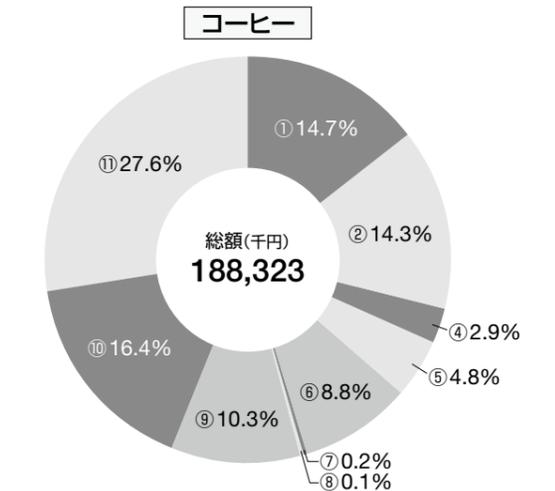
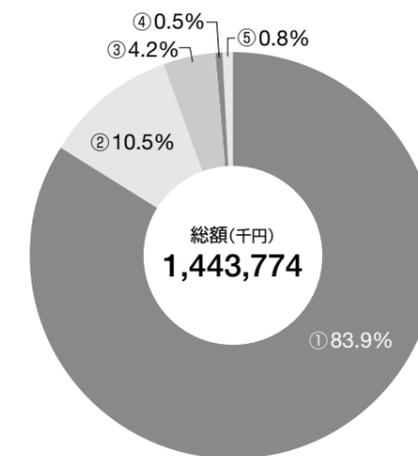
取扱商品別売上高推移 (2008年度～2012年度)



主要商品の販売先 (2012年度)



取引先別売上高 (2012年度)



- ① 生協・産直団体関連
- ② 原料関連
- ③ 店舗関連
- ④ APLA
- ⑤ その他

- ⑦ あいコープみやぎ
- ⑧ 新潟県総合生協
- ⑨ らでいっしゅぼーや(株)
- ⑩ 店舗、APLA、卸など
- ⑪ 原料
- ① バルシステム生協連合会
- ② グリーンコープ連合
- ③ 生活クラブ事業連合
- ④ 生活クラブ関西第2事業部
- ⑤ 生活クラブ関西事業部
- ⑥ (株)大地を守る会

1986年

- 2月 フィリピン、ネグロス島の飢餓に対する支援団体として『日本ネグロス・キャンペーン委員会(JCNC)』発足。
- 6月 ネグロス島への緊急支援開始。
- 12月 ネグロス島に民衆の物流会社『オルター・トレード社(ATC)』が設立される。

1987年

- 3月 JCNC及び他3団体の共同企画として、ATCを通して“**マスコバド糖**”の輸入開始。ネグロスとの民衆交易が始まる。

1988年

- 12月 “バラゴンバナナ民衆交易”をめざして、『オルター・トレード・ジャパン設立準備会』発足。

1989年

- 2月 生協連合グリーンコープと共同でネグロス島より“**バラゴンバナナ**”のテスト輸入第1号が神戸港に到着。
- 10月 『株式会社オルター・トレード・ジャパン(ATJ)』設立。
- 11月 大型台風ルピンにより、ネグロス島のバラゴンバナナ産地に大被害発生。

1991年

ネグロス西州のラ・グランハ地域で、台風被害からの復興と自立した村づくりのための『バナナ村自立開発5ヵ年計画』が開始され、7月には同地域に『バラゴン生産者協会(BGA)』が発足。

1992年

- 4月 インドネシアのジャワ島東部より、粗放養殖エビ“**エコシュリンプ**”輸入開始。

1993年

- 10月 韓国の南順天農協より、“**南道キムチ**”の輸入開始。
- 12月 エクアドルより、有機栽培コーヒー“**ナチュラルッサ**”輸入開始。

1994年

- 3月 ネグロス西州のラ・グランハ地域でバンチトップ病害(バナナの病気)が深刻化する。

1996年

- 3月 ネグロス西州に、バナナ病害対策のひとつとしてデモ・研修農場『カネシゲファーム』を設立。
- 9月 イギリスのTWIN(フェアトレード団体)との提携で、ペルー、メキシコ及びタンザニアからのフェアトレードコーヒー“**みんなでつくるコーヒー**”シリーズの取り組みを開始。

2000年

- 4月 インドネシアのエコシュリンプに有機認定システム導入プロジェクトの取り組みを開始。
- 7月 インドネシア、スラバヤ市に現地事務所開設。
- 9月 『バラゴンバナナ・リニューアル計画(BRP)』日比合同会議開催、及びプロジェクト開始。

2001年

- 5月 TWINとの提携でフェアトレードコーヒー“**みんなでつくるコーヒー—ハイチ**”の取り組みを開始。

2002年

- 3月 “**ゲランドの塩**”(フランス)の取り組みを開始。
- 5月 “**アジアコーヒーコレクション—東ティモール**”の取り組みを日本のNPO団体と共同でマウベシ地域で開始。
- 6月 BRPの一環として、ミンダナオ島ツピ地域からのバラゴンバナナ出荷開始。

- 7月 エコシュリンプが、ドイツの認定団体ナチュラントから有機認証を取得。

- 9月 BRPの一環として、ネグロス島でバラゴンバナナの管理栽培開始。

2003年

- 6月 インドネシアに『オルター・トレード・インドネシア(ATINA)』を設立。

- 12月 大型台風ヨヨンにより、ルソン島北部のバラゴンバナナ産地に大被害発生。

2004年

- 11月 “**パレスチナのオリーブオイル**”の取り組み開始。

2005年

- 3月 “**アジアコーヒーコレクション—ラオス**”の取り組み開始。
- 5月 エコシュリンプ、ATINA社での冷凍加工製造開始。
- 6月 エコシュリンプ、インドネシアの南スラウェシからの出荷開始。
- 10月 パルスシステム連合会による第1回ATC(バラゴンバナナ)公開確認会実施。

2006年

ミンダナオ島の北ミンダナオ地域、及びレイクセブ地域よりバラゴンバナナの出荷を開始。

2007年

- 6月 “**アジアコーヒーコレクション—東ティモール**”の取り組みを、ATJ独自でエルメララ県及びアイレウ県で開始。

2008年

- 5月 東ティモールに『オルター・トレード・ティモール(ATT)』を立ち上げる。
- 8月 パルスシステム連合会による第1回ATINA(エコシュリンプ)公開確認会実施。
- 11月 TWINとの提携でフェアトレードコーヒー“**みんなでつくるコーヒー—ルワンダ**”の取り組みを開始。

2009年

- 1月 イスラエル軍ガザ侵攻による被災者に対して、パレスチナ産オリーブオイル出荷団体より支援要請。ATJ、生協団体、(特活)APLAが応える。
- 9月 ATJ20周年記念シンポジウム、パーティ『出会う!つながる!力を出し合って切り拓く未来』を開催。
- 10月 『互恵のためのアジア民衆基金(APF)』設立総会が韓国、ソウルで開催。ATJも会員として参加。

2011年

- 2月 『ATJあぶらブックレット① エビ加工労働者という生き方』刊行。発刊にあわせてATINA加工労働者3名が来日、生協組合員と交流。
- 3月 11日 東日本大震災発生。4月以降フィリピンより支援バナナ、東ティモール、パレスチナ、フランスの生産者等から義援金が届く。

2012年

- 2月 インドネシア・パプアで先住民族によるカカオの集荷・加工事業の取り組みを開始。6月パプアからカカオ豆を初出荷。
- 3月 「資源管理型漁業」に取り組む野村漁協組合員らがインドネシアでエコシュリンプ生産者らと交流。13年10月にはエコシュリンプ生産者が野村を訪問。
- 12月 インドネシア・パプアでカカオ事業に取り組むパートナーが来日、交流会を行う。

2013年

- 3月 ATINA社の新工場が完成。